

◆日時： 2014年5月10日（土） 14時～17時

◆場所： 諫早市 勤労福祉会館

◆内容：

定例会のようす



県央保健所のしくみからお話していただきました。地域保健課の保健福祉班と健康対策班が一緒になって性教育の取り組みをしています。これは県の事業（健やか親子サポート事業）の中の一つである。

平成24年度までは、産婦人科医師と保健師で実施、25年度からは保健師が2名で実施している。25年度は、小中高校合わせて12校で実践しました。必ず学校との打ち合わせをして内容の検討をして役割分担して実施します。

★小学校では、（紙芝居）赤ちゃんが生まれるよ（講話）二次性徴、思春期について、妊娠や出産について（体験）赤ちゃん抱っこや妊婦体験

★中学校1年では、（講話）二次性徴、思春期について、妊娠や出産について（体験）赤ちゃん抱っこ、妊婦体験

★中学校3年と高校では、（講話）男女の身体、性に対する男女の違い、妊娠、人工妊娠中絶、避妊、性感染症予防、相談先感想や講話前と後で気持ちや考えが変わったことなどを書いてもらった。

性教育を担当してみていることは、打ち合わせや事前アンケートに応じて内容を変えているために準備に時間がかかること。保健師よりも普段から子どもに接している教師の方が子どもに合わせた講話ができるのではないかという思いがある。また1回だけの講話でどの程度子どもの力になるのかという思いもある。

次に、平成26年2月27日に実施した思春期保健従事者研修会の報告です。参加者は、33人でした。内容は、講話とシンポジウムと意見交換でした。「思春期の子どもを取り巻く現状と必要とされる性教育」という演題でやすひウィメンズヘルスクリニック院長安日泰子先生の講話でした。シンポジウムは、（地域で取り組む性教育）意見交換では、性教育のスキルをもっと学習したい、教材や資料がほしい、情報の共有をしたいなどが出された。最後に、保健所は学校と連携しながら、学校が主体となった性教育の応援をしていきたいと話されていました。性教育が学校の中でなかなか進められない現状の中で、保健所という地域の中で保健師さんが悩みながらも、一步一步着実に学校へのアプローチをされている姿がとても素敵でした。参加者が7人と少なかったのでぜひみなさんにも聞いてほしいねとみんなで話していました。